

2024年2月16日

投資家の皆様へ

株式会社ZUU
コーポレート・ディベロップメント室

2024年3月期第3四半期決算オンライン決算説明会 質疑応答（要約）

日時：2024年2月14日（水）16：00～17：30

出席者：代表取締役 富田 和成

執行役員 コーポレート・マネジメント・カンパニー 大井 賢治

以下は、説明会における主な質疑応答を取りまとめたものです。

【業績】

Q1) 今年の1月から新NISAが始まったが、現時点で業績への好影響はあるか。

A1) 新NISAが影響するのは主にメディア事業になるが、現時点ではSEOからの回復途上ということもあり、現状は業績への影響は少ない。

Q2) 業績予想修正の理由について「金融事業中心のビジネス構造への転換により、営業利益率が向上」とあるが、期初の富田代表の予想よりもさらに構造転換が進んでいるということなのか教えていただきたい。

A2) 図らずも転換が進んだ部分が多い。フィンテック・プラットフォームの業績が予想以上に回復仕切らなかった影響があり、全てが意図的な構造転換であったとは言えない。

Q3) 2024年3月期の注力ポイントの一つにM&Aの拡大とあったが、現状1社も買収できていない。魅力的な企業が出てきていない、価格が高騰している等理由があれば教えていただきたい。

A3) M&Aの責任者を中心に、常に複数案件の検討を進めている状況。足元の業績向上、金融事業への構造転換を優先的に進めつつ、高値掴みにならないよう慎重に検討を進めている。魅力的な案件があっても価格が折り合わず見送るケースもあった。魅力的な企業には出会っているので、タイミングや条件次第と考えている。もっと件数、条件交渉含めてレベルアップしていく必要があるので、今後も強化・検討を進めていきたい。

Q4) 3Q期間中の金融人材の採用状況と、4Q及び来期の採用計画について可能であれば教えていただきたい。

A4) 弊社の場合、金融事業の従業員は大手の金融機関出身者が非常に多く、リファラルでの採用は順調に進んでいる。4Qも大手金融機関のマネジャークラスの方たちが継続的にジョインしている。今後さらに金融人材採用を強化するかについては、今期の業績次第と考えている。来期以降の採用計画は、それぞれの事業責任者中心に議論中。現時点での回答は差し控えさせていただく。

Q5) レンジでの業績予想はやめてほしい。投資判断ができない。

A5) 今期、結果としてボラティリティがある業績予想となった。フィンテック・プラットフォームはSEOの影響から予想以上に下落、フィンテック・トランザクションは予想以上に上昇した。両方が予想以下だった場合、以上だった場合、ボラティリティが大きくなってしまふことがあり、投資家の方々に迷惑をかけないように検討した結果、レンジでの業績予想とさせていただいた。今後も事業特性上ボラティリティが高い状況は続くと思われる。ご容赦いただきたい。

Q6) 今回の決算説明では富田代表の表情が暗い印象を受けるが、第3四半期で満足できた点、良かった点はあるか。

A6) 表情に関しては自分では気がついていなかった。満足できた点よりも、満足できてない点が多かったと思っている。フィンテック・トランザクションはやればやるだけ伸びる領域。自身も現場に出ることがあり、ある程度コントロール可能なところもあるが、もっと価値のある提案をしていきたい思いが強い。フィンテック・プラットフォームは事業責任者を含めて頑張っているが、非常にご迷惑をおかけしている状況。売上については、レンジを引き下げさせていただいたこともあり、明るい気持ちになれなかった。4Qは巻き返していきたいので、見守っていただきたい。

Q7) 第3四半期では満足できなかった点が多かったとのことですが、今後の成長についての自信は変わらずとのことでしょうか。

A7) 自信は全く揺るいでいない。フィンテック・トランザクションの業績好調もあり、むしろ自信を増している。

【フィンテック・トランザクション】

Q8) メディア事業の状況が今後大きく改善が進まなくても、フィンテック・トランザクションを大きく成長させていくことは可能か教えていただきたい。

A8) 可能性はある。金融・不動産DX支援は大きな規模のクライアント様が1社入ってくると業績が一気に大きくなる構造。ここのアクセルを踏んで拡大する選択肢もある。そうなるとフィンテック・プラットフォームは拡大していく可能性もある。現時点では、選択と集中を検討しているタイミングなので、我々としてそこにリソースをさくか否かは来期以降の事業の中で戦略をどう考えるか次第と考えている。

Q9) 4Qに金融事業の数字がかなり大きく伸びる予想をされているが、これは一過性のものか、もしくは次の1Qも更に伸びを期待できるか。

A9) 断定はできない。フィンテック・トランザクションのビジネスは完全なるストック収益ではないので今後もアップ・ダウンは予想される。この領域はやったぶんだけ伸びるし、TAMも大きな領域と考えており、次の1Qに伸びるという断定はできないが、大きなトレンドでは右肩上がりになると思っている。

【フィンテック・プラットフォーム】

Q10) 基盤であるメディアの対策についてGoogleコアアップデートから一向に回復の兆しが見えないが今後の対策はどのように考えているか。

A10) メディアとしてあるべき姿は、ユーザーが持つ課題を解決するコンテンツの提供であると考えている。今後もユーザーを想像しながら、本当に価値のあるコンテンツを作り込み続ける以外はないと考えている。

【その他】

Q11) 子会社のCOOL、ユニコーンの業績について可能な範囲で教えていただきたい。また、決算資料などに開示しない理由があれば伺いたい。

A11) 決算開示資料の47ページに、参考情報として子会社2社まとめた数字の記載があるのでご確認いただきたい。

Q12) ユニコーンについて内情が知りたい。

A12) 細かい話は差し控えるが、ネクストステップに関してはある程度結論が見えてきており、遠くない未来に方向性を示すことができると考えている、

■ ご注意事項

・ 記載内容につきましては、質疑応答をもとに要約した当社の見解であり、その情報の正確性を保証するものではありません。また、今後予告なしに変更される可能性があります。なお、業績見通し等の将来に関する記述は、発表日時点の判断や入手可能な情報に基づくものです。

・ 本文の一部を引用される場合は、必ず引用元を明記の上、本ファイルのリンクをしていただきますようお願い致します。

■ お問い合わせ先

株式会社 ZUU コーポレート・ディベロップメント室 ir@zuuonline.com

以上